

肺炎球菌ワクチンを打ちましょう	1ページ
「春の子ども健康教室」レポート／医療福祉相談室だより③	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「糖尿病薬を上手に飲むために」／「糖尿病教室5月」のお知らせ	3ページ
外来からのお知らせ／小児外科からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ



今回は、高齢の方へ推奨されている、**ワクチン(予防接種)**のお話です。

23価肺炎球菌ワクチンについて、御存知でしょうか。

**65歳以上の高齢者に勧められている、肺炎球菌による肺炎を予防するためのワクチンです。**ワクチンというと、子どもが受けるものと思っている方も多いかと思いますが、実際は、高齢の方も、肺炎にかからないようワクチンを打って予防することが大事です。歳をとるにつれて肺炎にかかりやすくなり、また重症化しやすく、中には命を落とすことさえあるからです。

肺炎球菌は、健康な人の鼻やのどからみつける菌ですが、抵抗力が弱まると肺炎をはじめ、髄膜炎・敗血症・中耳炎などを引き起こします。**特に肺炎は日本人の死因の第4位で、そのうち95%以上が高齢の方です。**肺炎球菌は、肺炎の原因となる微生物の中でも、30～40%と最も頻度が高いうえに、重症化しやすく、最近ではペニシリンなどの抗生物質が効きにくい肺炎球菌が増加し、治療に苦労するケースが増えています。

## インフルエンザワクチンとの併用が効果的です。

2009年の新型インフルエンザウィルスの世界的な流行により、改めてインフルエンザワクチンを流行前に打つ必要性を認識された方も多いと思います。が、高齢者にとっては、インフルエンザワクチンだけで重症化するのを予防するのは難しいとされています。インフルエンザウィルスに感染すると、気道粘膜が障害され、他の細菌が侵入しやすくなります。特に、肺炎球菌に感染する頻度が高く、

インフルエンザウィルス単独の感染症よりも、ひき続いて起こった肺炎球菌の感染によって亡くなるケースが多いことがわかっています。従って、**インフルエンザワクチンと、肺炎球菌ワクチンを両方打つ事が重要です。**

また、高齢者施設に入所している方々にご協力いただいて私達が行った研究では、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを両方打った人のほうが、インフルエンザワクチンしか打っていない人より、肺炎球菌による肺炎が発症しにくく、死亡率も低いことがわかりました。



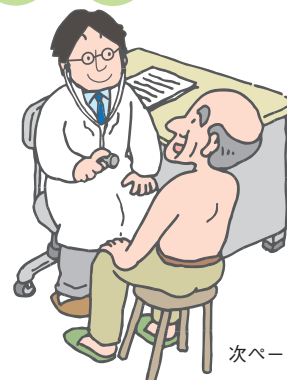
## 副作用はありませんか？

日本で発売されてから23年が経ちますが、死亡例などの重篤な副作用は1例も無く、高齢の方でも安心して打っていただけます。私たちが行った研究でも、502名が接種されましたが、打ったところに赤みが強く出るといった程度の副作用が数人に見られただけで、非常に安全な薬剤であることがわかっています。



## 費用はいくらかかりますか？

当院では、1回の接種にかかる費用は、7,700円ですが、一部、費用の補助が受けられる地域がありますので、お住まいの自治体の窓口にお問い合わせみてください。



肺炎球菌ワクチンを打ちましょう。

次ページに続きます▶▶▶